

水之上 文化財・観光 めぐり



1 たるみすせんぼん
垂水千本イチョウ

垂水市の新名所となっている千本イチョウは、園主の中馬吉昭さんが帰郷後、先代から受け継いだ荒れ果てた山を、奥様と二人三脚で育てられ、開墾されたイチョウ園で、「鹿児島県景観大賞」を受賞したほか、「世間自然遺産僕立公園（NPO 法人かごしま探検の会認定）」としても認定されています。

1 垂水千本イチョウ

2 井川観音

3 菜の花ロード (2月~3月)

4 氏久の逆修塔

5 手貫神社

6 三和センター (女男河原祭り会場)

7 彼岸花ロード (9月)

8 聖観音

9 孝子市太郎の墓

10 八千代伝酒造

11 白山神社

12 段の平家墓

13 新光寺古石塔群

14 馬込古石塔

15 荒人神社

16 勝軍地蔵

17 勝軍地蔵

18 牧の薬師如来

19 伊地知氏墓石群

20 町田、川上家老の墓

21 福寿寺跡

22 ひびり仏

23 伊地知氏墓石群

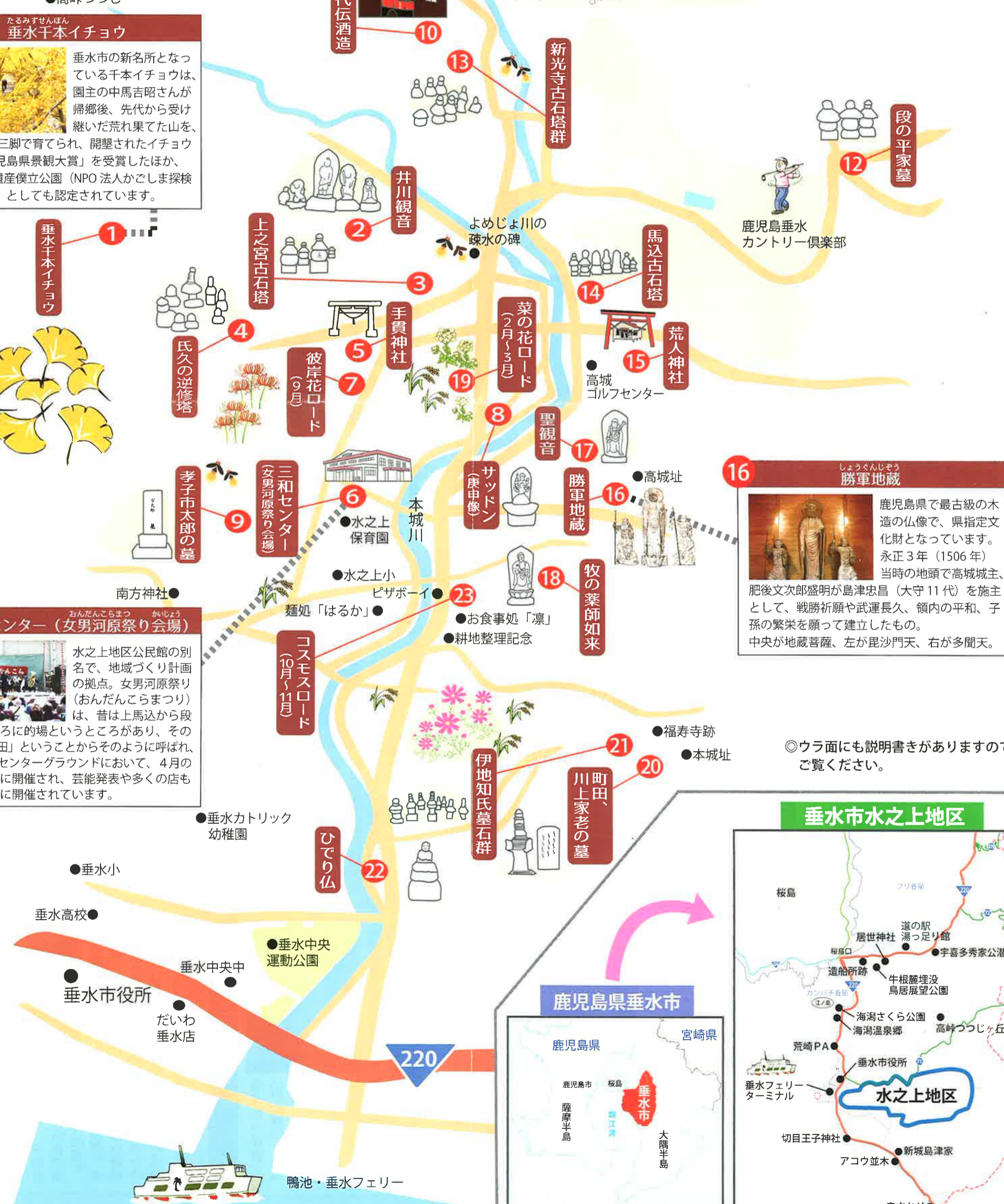
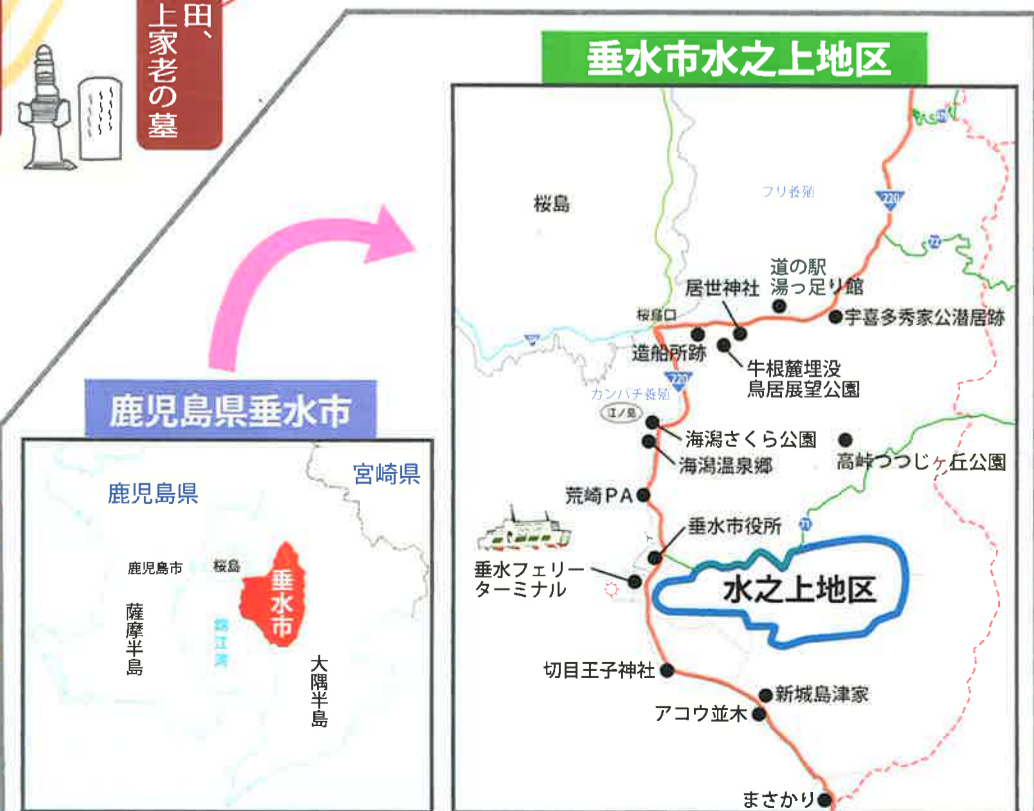
6 さんわ おんだんこらまつ がいしょう
三和センター (女男河原祭り会場)

水之上地区公民館の別名で、地域づくり計画の拠点。女男河原祭り(おんだんこらまつり)は、昔は上馬込から段へいくところに的場というところがあり、その辺を「小野田」ということからそのように呼ばれ、現在は三和センターグラウンドにおいて、4月の第1日曜日に開催され、芸能発表や多くの店も並び賑やかに開催されています。

16 しょうぐんじせう
勝軍地蔵

鹿児島県で最古級の木造の仏像で、県指定文化財となっています。永正3年(1506年)当時の地頭で高城城主、肥後次郎盛明が島津忠昌(大守11代)を施主として、戦勝祈願や武運長久、領内の平和、子孫の繁栄を願って建立したものです。中央が地蔵菩薩、左が毘沙門天、右が多聞天。

◎ウラ面にも説明書きがありますのでご覧ください。



2

井川観音



井川の疎水壅田碑から田んぼを隔てて山の麓に自然の大きな穴があり、岩下からは清水が湧き出ており、人里離れた静かなところで、石仏5体が安置されています。真中が十一面観音、右が不動明王、左が毘沙門天、右端が高僧、左端は不明。穴の上部は崩壊の危険があるので、注意が必要です。

7

彼岸花ロード



三和センター付近から手貫神社までの市道沿いに赤色を中心とした、彼岸花が植えられており、毎年9月にはけなげに咲いています。これは三和づくり計画の一環として植えられ、毎年、地域の振興会連絡協議会等の協力により整備がなされております。

11

白山神社



高隈山の一峰 827mの白山山頂にあり、イザナギノミコト、イザナミノミコト、菊理姫が祭神。この白山神社は本城の城主であった伊地知氏がこの下大隅の領主として来る時、越前加賀の国(石川県)の白山にある白山神社を分神として垂水に祭つたものと言われております。

15

荒人神社



祭神は中馬重頼。重頼は本城、伊地知氏の家臣で、肥後氏の高城方に殺されたが、死体は川の上流へ流れ、その霊が人々を悩ませたので重頼の持っていた大刀を添えて荒人大明神として祭つたといわれ、その後溺れる人もなくなったとのこと。

20

町田、川上家老の墓



伊地知氏の墓の近くにあり、垂水島津四代久信の跡継ぎ問題で、久信は、自分をいさめた家老、「川上忠実」、「町田忠照」を、さらに忠実の子「忠利」を討ち殺してしまいます。その時福寿寺の僧が現在地に葬つたそうです。現在の墓はもとの墓にかえて建てなおしたものと考えられています。

3

上之宮古石塔



平成8年地元住民の協力を得て復元されました。もっとも大きな五輪塔の水輪の一つに梵字のウーンの1字が刻まれているものもあります。ほとんどが室町時代のもので、伊地知氏の重臣であった中馬家との関係など今後の歴史解明の貴重な資料になるものと思われま。

8

(庚申像) サットン



今川原の丸山さん宅の一角に「サットン」という庚申像(こうじんぞう)が立っています。高さが120cm、六臂(左右に3本の手)で邪鬼(アマノジャク)を踏みつけています。一般に庚申は農業の神様として信仰されているところが多いようです。

12

段の平家墓



段は平家一族の集落と言われ、民家の庭先に4基の古い五輪塔が立っています。もっとも古いのは左から三番目で弘安年間(1278年ごろ)のものと考えられ、垂水市内では最も古い墓です。石質は溶結凝灰岩で、ずいぶん風化しています。

17

聖観音



勝軍地蔵の近く、民家のシラスの崖を少し彫りこんだ中に置かれており、像高89cmで厚肉彫で舟形光背になっており、左手に蓮の花を持ち、右手は与願印をしています。かつて廃仏毀釈にあい、村人がやぶに隠すなどして守つたそうです。

21

伊地知氏墓石群



伊地知氏は秩父(島山重忠)の子孫で、加賀の国の地頭であった伊地知季髓(すえより)が初代、三代季豊(すえとよ)が本城を中心に垂水を治めました。五代重豊、八代重武の墓が発掘されたが、その他は多くが不明で、未だその所在は分かっていません。

4

氏久の逆修塔



昭和51年地元住民等の協力により埋もれていた五輪塔50基位、宝篋印塔5基、その他宝塔の基礎などを発掘し、現在のように整備されました。中央正面の宝篋印塔が氏久の墓で逆修塔(生前に供養を兼ねて建てた)であり、同一の宝篋印塔の笠の隅飾の部分も発掘され、夫人のものであったと考えられます。

9

孝子市太郎の墓



市太郎は6歳で大人びて、しかも賢く、すべて親の教えにかなっていて、両親とも市太郎の将来を楽しみにしていました。ある日父が熱を出し水を井戸にくみに行き、誤って落ち死んでしまいます。その後、市太郎の親孝行を供養するために墓が建てられたということです。

13

新光寺古石塔群



昭和53年新光寺跡の復元作業で五輪塔11基が姿を現した。新光寺は文献に天台宗の寺跡として記録があるものの江戸時代にはすでに廃寺となつたと思われ、石塔の石質、形状などから鎌倉後期、大隅国垂水を支配していた豪族、肥後氏一族のものと思われています。

18

牧の薬師如来



土地の人はこの如来を「イボン神サア」といって、イボを治すのに、イボの数粒をお供えています。肌は朱に法衣は青に彩色され、左手に薬つぼを持ち、右手は施無畏(せむい)の印をしています。薬師如来は病気を治してくださる仏として崇拜されてきました。

22

ひでり仏



下本城の民家の庭先に石で造られたかわいい仏さんがあり、安産や子どもの成長を願い、参拝する人も多く、昔は六月灯も行っていたようです。

5

手貫神社



別名「上之宮神社」といって、郷社として垂水では最も社格の高い神社です。祭神は、応神天皇、神功皇后、玉依姫、仁徳天皇。この神社の正祭は、9月20日(旧暦)で、昔は19日から浜降りがあったり、流鏝馬を行ったりしていたと言われます。

10

八千代伝酒造



平成16年三代目社長八木栄寿氏が30年間休業していた家業の焼酎造りの再興を果たし、豊かな大自然を有する「猿ヶ城溪谷」に蔵を移築されました。仕込みはすべての工程を昔ながらのかめ壺で行う総かめ壺仕込み。「思いはひとつ、うまい焼酎をつくること」を胸に刻み、総かめ壺仕込みの焼酎造りに日々まい進されています。

14

馬込古石塔



石質は安山岩や山川石で時代は鎌倉から室町にかけての石塔で、この古石塔のところに「さつま板碑」が2基あります。これは一種の供養塔で、垂水市内には寺跡などに多く残っていますが、一般に五輪塔や宝篋印塔など二連がほとんどですが、これは単像で市内では大変珍しいものです。

19

菜の花ロード



三和づくり計画の一環として植えられ、毎年、地域の振興会連絡協議会等の協力により整備がなされております。

23

コスモスロード



【発行】鹿児島県垂水市本城 1355 番地 1 水之上地区公民館 教養文化部 TEL 0994-32-1597

なお、説明は中島信夫氏著「ふるさとの歴史(垂水市水之上編)」等を参考に作成いたしました。